

平成26年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

大 阪 市 立 十 三 小 学 校

児童数

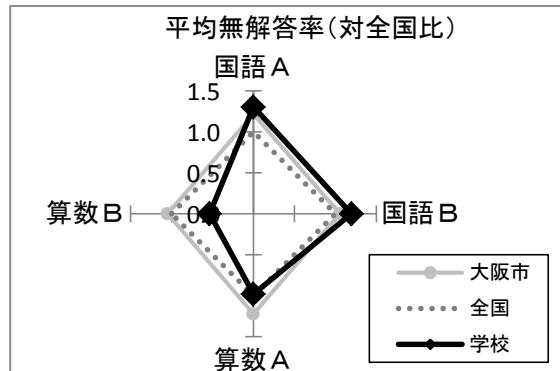
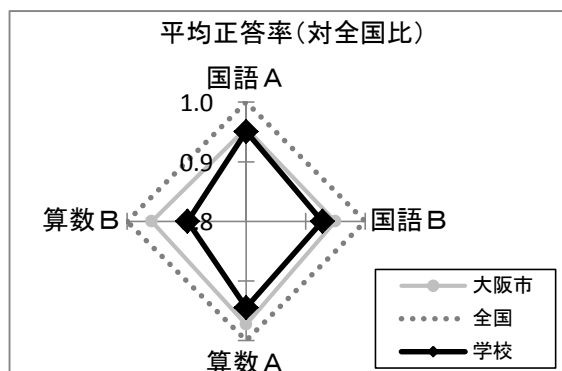
20

平均正答率（％）

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	69.3	51.5	73.8	52.3
大阪市	69.7	52.7	76.0	55.8
全国	72.9	55.5	78.1	58.2

平均無解答率（％）

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	3.0	11.0	0.9	2.3
大阪市	2.8	9.7	1.1	4.5
全国	2.3	9.2	0.9	4.3



結果の概要

「国語A」「国語B」は、大阪市の結果と差異はないが、全国と比べると3～4ポイント低い。また、「国語B」における無回答率は、全国より1.8ポイント高い。
 「算数A」「算数B」は、大阪市より2～3ポイント、全国より5～6ポイント低い。無回答率は、A・Bともに全国より低く、あきらめずにあらゆる方法を考えて解決しようとするようすが見受けられる。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

「言語活動の充実」を目指して取り組んできており、国語科、算数科の指導については、習熟度別少人数授業を取り入れ、きめ細やかな学習指導を行ってきた。また、朝の読書タイム、暗唱詩文の取組、漢字・計算問題の繰り返し学習により、一定の成果は得られている。
 しかし、学力の二極化が見られ、基礎的・基本的事項の習得がまだまだ不十分である。必要な知識や情報をうまく組みあわせて活用したり、自分の考えをわかりやすく説明したりする学習をより一層充実して取り組んでいく。
 家庭でも読書や自主学習など積極的に取り組めるよう連携を図り、児童を認め励ます言葉かけを行っていく。